熊本大学保健センター年報

令和2年度

令和3年度



熊本大学保健センター玄関

目　　次

巻頭言「ポスト・コロナに向けて」
熊本大学保健センター長　藤瀬　昇…… 1
沿　革 …… 3
保健センターの主な業務内容 …… 5
保健センター関係職員 …… 6

Ⅰ．令和２年度
1)健康診断業務…… 7
2)病院実習のための感染症予防対策 …… 11
3)日常受診業務（健康相談、応急処置等）…… 12
4)各種相談業務…… 13
5)産業医活動…… 14
6)その他…… 15
熊本大学保健センターだよりNo.48 …… 17
「大学生のステイホーム」熊本大学保健センター長　藤瀬昇 …… 17
「新型コロナウイルス感染防止について」
熊本大学保健センター准教授　副島弘文 …… 19
「心と身体のＳＯＳに気づく」熊本大学保健センター臨床心理士　松尾秀寿 …… 20
「昨年からメール相談を始めました」同キャンパスソーシャルワーカー　久保裕恵…… 20
Ⅱ．令和３年度
1)健康診断業務…… 21
2)病院実習のための感染症予防対策 …… 25
3)日常受診業務（健康相談、応急処置等）…… 26
4)各種相談業務…… 27
5)産業医活動…… 28
6)その他…… 29
熊本大学保健センターだよりNo.49…… 31
「困ったときは誰かに相談しましょう」熊本大学保健センター長　藤瀬昇 …… 31
「コロナ禍での健康管理」熊本大学保健センター准教授　副島弘文 …… 32
「コロナ禍での学生生活の過ごし方」熊本大学保健センター助教　長岡舞子 …… 33
「保健センターの利用について」熊本大学保健センター看護師　田代邦子 …… 34
Ⅲ．保健センター業績
コロナ禍の学生定期健康診断～熊本大学の状況～…… 35
第51回九州地区大学保健管理協議会（WEB開催）合同シンポジウム「ポストコロナ時代の保健管理」
保健センター業績目次 令和2年度－令和3年度…… 38

…… 巻頭言 ……

「ポスト・コロナに向けて」

熊本大学保健センター長　　藤瀬　昇

今回も新型コロナについて書くことにします。今年２月のロシアによるウクライナ侵攻のニュースで、当たり前と思っていた価値観が揺さぶられる中、まさか、ここまでコロナ禍が続くとは思ってもみませんでした。先日、保健センターを受診してくれた学生さんは、2020年４月の入学でした。彼らは入学式もなく、授業は全てオンライン、サークル活動も中止され、新たな友人関係も作れず、引きこもり状態になったことを話してくれました。熊本大学の新入生は概ね４分の３が県外出身で、初めての一人暮らしとなり、ただでさえ大学生活に適応していくのに大変なところを、2020～2021年度入学の学生さんたちには相当な適応力が求められたのではないかと想像します。そう言われると、例年ゴールデンウイーク過ぎ頃からのメンタル不調を“五月病”と総称したりしていましたが、ここ最近はパッタリ聞かなくなった気がします。それどころではないということかも知れません。他県のある国立大学では、2020年度入学の新入生はその前後の年度の新入生に比べ、修学面での負担を感じている学生の割合が高かったという調査結果も報告されています。

現在、第７波の真っ最中で、連日コロナ感染者数の記録更新が報じられ、医療の逼迫が叫ばれています。その一方で、国からこれまでのような行動制限が発令されることはなく、明らかに国の対応が変わってきています。欧米の先行例もありますが、いよいよ新型コロナウイルスとの共生がわが国でも本格的に始まったということでしょうか。感染症法上の取扱いの変更についても取り沙汰されるようになってきており、ポスト・コロナはもうすぐそこに来ているのかも知れません。

コロナ禍により大変苦労したわけですから、この経験を今後に生かしたいと考えるのは私だけでしょうか。衛生面では多くの人が、帰宅時や食事前の手洗いの習慣化、対面や集団の際のマスクの重要性などを認識するようになったと思います。また、IT技術の普及が格段に進みました。もともとその前から取り組みが始まっていた、オンライン会議、授業や動画教材についてはますます便利になることが期待されます。もちろん掘り下げた話し合いや合意形成には、対面による場の共有が欠かせないと思いますが、全ての事柄で皆が同じ時間に、同じ場所で一斉に取り組まなければならないわけでもないように思います。以前から、集団あるいは人が集まる空間が苦手な人たちがいます。授業の到達目標達成にあまり影響しないのであれば、授業へのリモート参加もありでしょうか。選択肢が増えることは、個別化や多様性といった時代の流れに沿っているように思われます。ただし、引きこもり状態には注意が必要です。利便性のあまり、ついつい生活リズムが乱れてしまい、昼夜逆転気味になって保健センターを訪れる学生さんは少なくありません。睡眠のリズムが乱れると、日中ボーっとしてしまい、一見「うつ」っぽくなってしまうからです。中には、しばらく人と話してないので、喋り方を忘れてしまったような気がしますと言っていた学生さんもいました。インターネット依存にも要注意です。睡眠のメカニズムはまだまだ解明されていないことが多い

のですが、ヒトには概日リズムという体内時計が備わっていて、睡眠のリズムが地球の自転とズレ過ぎてしまうとさまざまな自律神経の不調をきたしてしまうようです。

パンデミックが終息するにはもう少し時間がかかるようですが、引き続き「三密は避け、こころは親密に」ありたいものです。保健センターでは、日々、健康面に関する相談に対応し、学内の感染情報の集約に努めています。今後も学生及び教職員の健康支援に取り組んで参りますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

【参考】

「良い睡眠で、からだもこころも健康に。」特設 Web コンテンツ（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_23950.html

沿　　革

昭和48年 4月　熊本大学に保健管理センター設置
昭和49年 2月　熊本大学内科学第一教室より徳臣晴比古教授が所長就任
　　同教室より出田透助教授就任
昭和50年 4月　看護師1名を配置
　　5月　保健管理センター新庁舎落成
　　8月　第5回九州地区大学保健管理研究協議会開催
昭和51年 4月　国立療養所豊福園より伊津野良治助手就任
　　看護師1名を追加配置
昭和52年 1月　伊津野良治助手の転出につき、水俣市立病院より津田富康講師就任
昭和53年 4月　津田富康講師の転出につき、附属病院より伊津野良治講師就任
昭和55年 4月　伊津野良治講師の転出につき、附属病院より岳中耐夫助手就任
昭和56年 4月　岳中耐夫助手の転出につき、附属病院より寺本仁郎助手就任
　　11月　徳臣晴比古教授退任につき、出田透教授就任
昭和57年 2月　出田透教授が所長に就任
　　4月　寺本仁郎助手の転出につき、附属病院より植川和利助手就任
　　6月　出田透所長昇進につき、倉元涼子助手就任
昭和59年 4月　植川和利助手の転出につき、附属病院より上野洋講師就任
昭和60年 4月　倉元涼子助手、講師昇進
　　上野洋講師の転出につき、附属病院より小川久雄助手就任
昭和61年 4月　小川久雄助手の転出につき、附属病院より松山公士助手就任
昭和62年 1月　第6回九州地区大学保健管理業務に従事する保健婦・看護婦研修会開催
　　4月　松山公士助手の転出につき、附属病院より藤井裕己助手就任
　　8月　第17回九州地区大学保健管理研究協議会開催
昭和63年 1月　第7回九州地区大学保健管理業務に従事する保健婦・看護婦研修会開催
　　9月　藤井裕己助手の転出につき、附属病院より森上靖洋助手就任
平成 2年 4月　森上靖洋助手の転出につき、附属病院より松山公三郎助手就任
　　6月　倉元涼子講師、助教授昇進
平成 6年 4月　松山公三郎助手の転出につき、附属病院より中尾浩一助手就任
平成 7年 4月　倉元涼子助教授の転出につき、附属病院より本田寿賀助手就任
　　9月　中尾浩一助手の留学につき、附属病院より平島修助手就任
平成 9年 4月　平島修助手の転出につき、天草地域医療センターより角田隆輔助手就任
平成10年 4月　熊本大学健康管理システム運用開始
　　8月　第28回九州地区大学保健管理研究協議会開催
　　11月　第18回九州地区大学保健管理業務に従事する保健婦・看護婦研修会開催
平成11年 3月　学務情報システム運用開始
　　Web上での学生健康診断個人履歴票の閲覧及びメールによる健康診断書の受

付開始
平成12年 4月　角田隆輔助手の転出につき、附属病院より副島弘文助手就任
各種証明書自動発行機での健康診断証明書発行開始
平成12年 6月　出田透所長退任につき、安藤正幸所長就任（併任）
平成12年11月　熊本大学代謝内科学教室より岸川秀樹教授就任
平成13年 4月　安藤正幸所長退任につき、岸川秀樹所長就任
本田寿賀助手の転出につき、附属病院より工藤（旧姓玉真）祐美助手就任
平成14年10月　臨床心理士（非常勤）2名を配置
平成15年 3月　保健管理センター竣工
平成16年 4月　「熊本大学保健センター」に施設名を変更
平成17年 4月　工藤祐美助手退職につき、附属病院より桂智子助手就任
平成18年12月　副島弘文助手、准教授に昇進
平成19年 7月　看護師1名を追加配置し、本荘地区に健康相談室設置
平成20年 3月　桂智子助手退職
平成21年 3月　菊池陽子助手就任
8月　第39回九州地区大学保健管理研究協議会開催
平成24年 4月　大江地区健康相談室開設、保健センターから看護師を週半日配置
平成26年 4月　臨床心理士（有期雇用職員フルタイム）を配置し、本荘大江地区での心理相談開始
平成27年 5月　岸川秀樹教授（センター長）退職
平成27年 7月　副島弘文准教授、センター長に就任
平成28年 4月　熊本地震後、黒髪体育館避難所（熊本市）の救護対応にあたる
平成28年 5月　熊本大学医学部神経精神科より藤瀬昇教授就任
平成29年 1月　藤瀬昇教授保健センター長に就任
平成31年 4月　事務職員1名（再雇用職員パート）を配置
令和元年10月　ｷｬﾝﾊﾟｽｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ1名（有期雇用職員パート）配置
令和3年　3月　菊池陽子助教退職
令和3年　5月　長岡舞子助教就任

令和4年3月31日現在

保健センターの主な業務内容

１）健康診断業務　　学生定期健康診断
学生定期健康診断尿検査
学生定期健康診断精密検査
疲労蓄積度調査及び調査にもとづく学生面談
放射線取扱者（学生）の健康診断
５月以降入学学生の健康診断
体育会系学生貧血検査及び特別健康診断（希望クラブのみ）
健康診断証明書の発行

２）病院実習のための感染症予防対策
４種ウイルス（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）抗体検査及びワクチン接種の指導
結核に関する検査（胸部Ｘ線）
Ｂ型肝炎ワクチン接種
インフルエンザワクチン接種
感染対策証明書発行

３）日常受診業務（健康相談、応急処置等）

４）各種相談業務　　こころの健康相談
なんでも相談
特別健康相談（整形外科、婦人科）
性に関する相談

５）産業医活動　　職場巡視
安全衛生委員会
職員健康診断事後指導
休職・復職者面接
長時間労働者面接

６）その他（講義・出版物・講演会等）

７）研究活動

保健センター関係職員（令和4年3月1日現在）

保健センター職員	教授（センター長）	藤瀬　昇（精神科）
	准教授	副島　弘文（循環器内科）
	助　教	長岡　舞子（精神科）
	臨床心理士	松尾　秀寿
	公認心理師	川村　博子
	ｷｬﾝﾊﾟｽｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ	久保　裕恵
	看護師	田代　邦子
	看護師	木下　麻衣子
	看護師	山本　洋美（医学部健康相談室）
	事務補佐員	片山　きよみ
学　校　医	講　師	藤本　徹（整形外科）
	助　教	佐々木　瑠美　（婦人科）

保健センター運営委員会委員

保健センター	センター長	藤瀬　昇
大学院教育学研究科	教　授	大石　康晴
熊本大学病院	教　授	竹林　実
人文社会科学研究部（文学系）	准教授	サガズ　ミシェル
人文社会科学研究部（法学系）	教　授	苑田　亜矢
先端科学研究部（理学系）	助　教	但馬　達哉
先端科学研究部（工学系）	准教授	小林　牧子
生命科学研究部（医学系）	教　授	竹林　実
生命科学研究部（薬学系）	教　授	猿渡　淳二
生命科学研究部（保健学系）	教　授	伊藤　茂樹
保健センター	准教授	副島　弘文
保健センター	助　教	長岡　舞子
事　務	総務部長	西川　毅
事　務	学生支援部長	内山　裕二

令和2年度

１．健康診断業務

１）令和２年度学生定期健康診断　学部・学年別受診率

区分		学生現員			内科受診(9月)						胸部Ｘ線(4月)			平成31年	平成30年
					受診者			受診率			受診者			率	率
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	計	計
文学部	1年	79	149	228	24	48	72	30.4	32.2	31.6	64	115	179	80.6	80.5
	2年	64	124	188	5	17	22	7.8	13.7	11.7	0	0	0	68.1	70.5
	3年	61	136	197	4	11	15	6.6	8.1	7.6	0	0	0	31.0	38.4
	4年	70	145	215	7	29	36	10.0	20.0	16.7	4	1	5	61.0	65.0
小　計		274	554	828	40	105	145	14.6	19.0	17.5	68	116	184	61.9	65.4
教育学部	1年	100	179	279	31	99	130	31.0	55.3	46.6	87	155	242	80.6	79.8
	2年	98	146	244	46	117	163	46.9	80.1	66.8	1	0	1	97.6	88.7
	3年	107	142	249	87	125	212	81.3	88.0	85.1	0	5	5	96.4	86.7
	4年	119	154	273	66	98	164	55.5	63.6	60.1	2	2	4	85.3	85.7
小　計		424	621	1,045	230	439	669	54.2	70.7	64.0	90	162	252	88.9	85.0
法学部	1年	124	109	233	38	43	81	30.6	39.4	34.8	110	99	209	87.5	92.9
	2年	113	123	236	3	8	11	2.7	6.5	4.7	0	0	0	24.0	62.6
	3年	114	105	219	7	1	8	6.1	1.0	3.7	0	0	0	44.4	56.8
	4年	120	108	228	29	33	62	24.2	30.6	27.2	1	0	1	72.1	66.7
小　計		471	445	916	77	85	162	16.3	19.1	17.7	111	99	210	57.9	70.8
理学部	1年	150	58	208	43	14	57	28.7	24.1	27.4	143	55	198	94.9	94.8
	2年	176	47	223	30	14	44	17.0	29.8	19.7	0	0	0	51.1	58.8
	3年	163	54	217	27	18	45	16.6	33.3	20.7	7	4	11	50.5	59.5
	4年	140	50	190	23	12	35	16.4	24.0	18.4	1	0	1	83.2	76.7
小　計		629	209	838	123	58	181	19.6	27.8	21.6	151	59	210	69.4	72.4
医学部	1年	120	150	270	63	61	124	52.5	40.7	45.9	113	147	260	98.2	83.6
	2年	132	157	289	109	137	246	82.6	87.3	85.1	78	32	110	96.2	96.0
	3年	114	153	267	96	126	222	84.2	82.4	83.1	79	31	110	92.3	91.4
	4年	121	162	283	96	128	224	79.3	79.0	79.2	77	42	119	94.3	96.5
	5年	67	32	99	56	27	83	83.6	84.4	83.8	62	28	90	93.4	93.4
	6年	85	40	125	48	21	69	56.5	52.5	55.2	70	35	105	92.4	97.7
小　計		639	694	1,333	468	500	968	73.2	72.0	72.6	479	315	794	94.9	92.6
薬学部	1年	70	50	120	28	25	53	40.0	50.0	44.2	60	40	100	86.7	80.4
	2年	48	50	98	1	7	8	2.1	14.0	8.2	0	0	0	93.8	84.4
	3年	48	51	99	5	16	21	10.4	31.4	21.2	0	0	0	61.3	70.7
	4年	42	45	87	5	10	15	11.9	22.2	17.2	0	0	0	85.7	85.7
	5年	30	30	60	29	28	57	96.7	93.3	95.0	29	28	57	98.2	96.5
	6年	25	32	57	9	5	14	36.0	15.6	24.6	0	0	0	93.3	96.4
小　計		263	258	521	77	91	168	29.3	35.3	32.2	89	68	157	85.2	83.7
工学部	1年	419	117	536	109	44	153	26.0	37.6	28.5	393	107	500	93.1	90.4
	2年	425	100	525	28	10	38	6.6	10.0	7.2	0	0	0	56.1	47.2
	3年	476	109	585	31	13	44	6.5	11.9	7.5	41	4	45	44.7	45.9
	4年	556	116	672	78	48	126	14.0	41.4	18.8	0	0	0	68.0	73.5
小　計		1,876	442	2,318	246	115	361	13.1	26.0	15.6	434	111	545	65.5	65.1
多言語文化総合教育センター	1年	2	1	3	1	0	1	50.0	0.0	33.3	1	0	1	0.0	0.0
小　計		2	1	3	1	0	1	50.0	0.0	33.3	1	0	1	0.0	0.0
養護教諭特別別科	1年	0	41	41	0	39	39	0.0	95.1	95.1	0	40	40	100.0	100.0
小　計		0	41	41	0	39	39	0.0	95.1	95.1	0	40	40	100.0	100.0
教育学研究科		40	30	70	9	8	17	22.5	26.7	24.3	19	16	35	59.1	63.6
保健学教育部		43	51	94	14	8	22	32.6	15.7	23.4	9	11	20	39.1	41.3
自然科学教育部		909	173	1,082	287	67	354	31.6	38.7	32.7	30	10	40	72.4	78.5
社会文化科学教育部		176	147	323	8	9	17	4.5	6.1	5.3	8	8	16	20.2	0.0
自然科学研究科		40	13	53	2	0	2	5.0	0.0	3.8	0	0	0	33.3	60.4
医学教育部		278	124	402	40	25	65	14.4	20.2	16.2	63	32	95	27.9	28.5
薬学教育部		89	60	149	19	19	38	21.3	31.7	25.5	2	4	6	66.7	64.8
特別支援教育特別専攻科		8	8	16	7	7	14	87.5	87.5	87.5	7	8	15	75.0	88.2
小　計		1,583	606	2,189	386	143	529	24.4	23.6	24.2	138	89	227	52.9	52.2
合　計		6,161	3,871	10,032	1,648	1,575	3,223	26.7	40.7	32.1	1,561	1,059	2,620	69.6	70.3
留学生		297	249	546	56	39	95	18.9	15.7	17.4	54	41	95	55.2	53.1

＊胸部Ｘ線撮影４月対象者は、「学部１年生」・「熊大入学初年度の学生」及び一部の「本年度の病院実習予定者」・「本学附属学校等での教育実習予定者」　＊集計の留学生は、内数

＊新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、内科健診・身長体重及び血圧測定は、時期を８月～10月に延期し、変則的に実施した。内科健診の受診率は32.1%と大きく落ち込んだ。

2）令和２年度　学生定期健康診断　胸部Ｘ線撮影２月実施

教育実習対象者及び病院実習対象者（医学部保健学科）に対して、新年度４月からの実習に間に合うように２月に実施している。

区分		胸部デジタル撮影(2月)		
		男	女	計
文学部	3年	7	13	20
	4年	2	0	2
教育学部	1年	76	143	219
	2年	77	138	215
	3年	88	126	214
	4年	2	0	2
理学部	2年	18	5	23
	3年	35	13	48
医学部（保健学科）	1年	30	111	141
	2年	33	118	151
	3年	25	116	141
工学部	3年	1	2	3
合　計		394	785	1,179

3）令和２年度　学生定期健康診断　尿検査（４月と７月に実施）

実施者 / 区分	卒業予定者		１年次生	
	受診者	異常者	受診者	異常者
文学部	142	7	167	8
教育学部	227	9	213	12
法学部	109	2	170	7
理学部	148	6	173	8
工学部	466	9	456	19
医学部	244	7	240	18
薬学部	82	3	91	7
養護教諭特別別科	0	0	40	0
小　計	1,418	43	1,550	79
教育学研究科	22	1	－	－
保健学教育部	8	0	－	－
自然科学教育部	389	9	－	－
社会文化科学教育部	13	2	－	－
自然科学研究科	13	0	－	－
医学教育部	23	1	－	－
薬学教育部	33	1	－	－
特別支援教育特別専攻科	0	0	－	－
小　計	501	14	－	－
合　計	1,919	57	1,550	79

4）令和 2 年度　学生定期健康診断　精密検査（10 月～11 月実施）

	該当者	欠席者	異常なし	放置可	経過観察	要精密	要治療	治療中	受診率
循環器	14	8	1	2	3	0	0	0	42.9%
貧血	3	1	2	0	0	0	0	0	66.7%
リンパ節	2	0	1	1	0	0	0	0	100.0%
その他の内科	10	2	1	0	4	2	1	0	80.0%
整形外科	1	0	0	0	0	1	0	0	100.0%
婦人科	9	4	0	0	0	5	0	0	55.6%
胸部Ｘ線(4月・2月)	24	0	15	3	4	0	2	0	100.0%
血液検査	3	1	2	0	0	0	0	0	66.7%
尿検査	143	53	55	0	22	12	0	1	62.9%
			(8)		(1)	(1)		(1)	
	209	69	77	6	33	20	3	1	67.0%

（　）は、本荘・九品寺・大江地区健康相談室での実施件数で、内数

＊結核や悪性疾患はなかったが、胸部Ｘ線撮影の精密検査で、2 名（気管支原性のう胞・自然気胸）が肺の手術を受けた。

【血圧再検査について】

新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、身長体重・血圧の計測を希望者に絞って実施したことが影響し、血圧再検査の対象者も減少した。

収縮期血圧 140mmHg 以上、及び 80mmHg 未満、拡張期血圧 90mmHg 以上

該当者　11 人（収縮期血圧 160mmHg 以上、拡張期血圧 90mmHg 以上は、0 人）

受検者　3 人

指導を必要とした者　0 人

5）学生定期健康診断時に実施する疲労蓄積度調査及び調査にもとづく学生面談

疲労蓄積度調査回答 1,729 人のうち、メンタル不調及び相談希望学生 234 人へ封書にて精神科医師・臨床心理士との面談を促した。全体の来談者数 31 人（既に通所中 27 人含む）

6）令和 2 年度　放射線取扱者（学生）の健康診断

担当：副島医師

①　対象学生

4 月期：新たに放射線を取り扱う学生

7 月期：平成 31 年度 1 月期及び令和 2 年度 4 月期に健康診断を受診した学生
並びに新たに放射線を取り扱う学生

10 月期：新たに放射線を取り扱う学生

1 月期：令和 2 年度 7 月期及び同年度 10 月期に健康診断を受診した学生
並びに新たに放射線を取り扱う学生

② 健康診断実施方法

放射線取扱者健康診断問診票による皮膚・眼及び被爆状況等の問診並びに血液検査

	4月期	7月期	10月期	1月期	計
教育学部	0	1	1	4	6
理学部	13	25	0	17	55
医学科・医学教育部	3	16	2	14	35
保健学科・保健学教育部	0	100	0	132	232
薬学部・薬学教育部	0	79	4	58	141
工学部	26	58	4	56	144
自然科学研究科・教育部	0	152	5	114	271
社会文化科学教育部	1	1	0	1	3
合計	43	432	16	396	887

7）令和 2 年度　5 月以降入学学生の健康診断

11 月 30 日実施

検査項目	受検者数	異常あり	備　考
内科	人 19	人 3	内科 1 人（糖尿病） 婦人科 1 人、メンタル不調 1 人
胸部 X 線撮影	19	0	

＊新型コロナウイルスの影響で、留学生の入学が制限された為、受検者が減少した。

8）令和 2 年度　体育会系学生貧血検査及び特別健康診断（希望者）

貧血検査（血液一般・血清鉄）

受検者　18 人（異常なし 16 人、経過観察 2 人）　10 月 27 日実施

特別健康診断（内科・検尿等）

空手部　8 人（全員異常なし）　9 月 28 日実施

9）令和 2 年度　健康診断証明書発行

	日本語	英文
保健センター	325 枚	4 枚
ポータル証明書発行システム	529 枚	8 枚
合　計	854 枚	12 枚

２．病院実習のための感染症予防対策

病院実習が必要な医学部医学科・保健学科、薬学部薬学科、教育学部養護教諭養成課程において、各施設より求められた基準に基づき感染症予防対策を行っている。

１）４種ウィルス（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査及びワクチン接種

抗体検査については、希望者（全学対象）に実施。費用は、自己負担
（6 月 23 日 300 人、10 月 27 日 52 人、その他医学部・薬学部主体で実施 344 人）
ワクチン接種については、各自病院で受けるように指導

２）結核に関する検査（胸部Ｘ線）

定期健康診断時の胸部Ｘ線受検を義務化

３）インフルエンザ予防接種

医学部医学科と保健学科が、学部主体でインフルエンザワクチン接種を行う際の準備と応援。教育学部は、学部（外注）にて実施

４）Ｂ型肝炎ワクチン接種

学部学科の依頼で実施。経費は、学部又は学生負担

対　象	区　分	実施者数	備　考
医学部	前採血(R2.9.16)	114	ワクチン接種必要なし２名、希望しない１名
医学科	１回目(R2.10.6)	119	３年生２クール目、未受検者追加
２年	２回目(R2.11.10)	118	未受検者は外部受検予定
	３回目(R3.3.9)	117	〃
	後採血(R3.4 月予定)		
医学科	３回目(R2.7.14)	115	
３年	後採血(R2.9.16)	102	96 名に抗体（＋） 未受検者は外部受検予定 抗体陰性者６名は、２クール目を実施中
医学部	前採血(R2.4.9)	143	ワクチン接種必要なし４名
保健学科	１回目(R2.6.18)	139	
看護１年	２回目(R2.7.16)	139	
検査３年	３回目(R2.12.3)	139	
放射３年	後採血(R3.1.14)	139	135 名に抗体（＋）
教育学部	前採血(R2.6.23)	31	ワクチン接種必要なし２名、希望しない２名
養教１年	１回目(R2.7.28)	28	前年度未実施者１名追加
	２回目(R2.8.27)	28	
	３回目(R2.12.22)	28	
	後採血(R3.4 月予定)		

薬学部 薬学科４年	前採血(R2.4.20) １回目(R2.9.15) ２回目(R2.10.13) ３回目(R3.2.2) 後採血(R3.4 月予定)	51 51 50 50	ワクチン接種必要なし０名 １名２回目～休学中

注：前採血　GOT・GPT・HBs 抗原・HBs 抗体
後採血　HBs 抗体（定量）

５）１）～４）の指導

入学時に４種ウイルスワクチン接種記録の入力作業及び入学後に必要なワクチン接種の指導

全ての対策が完了するまで、継続的な個別指導

６）データ管理と感染症対策証明書発行

感染症対策データを保健センター内サーバにて管理

令和２年度　感染症対策証明書発行枚数　4,212 枚

３．日常受診業務（健康相談・応急処置等）

令和２年度　日常受診一覧

担当：内科医師（副島）及び看護師

＊学生区分は、留学生を優先して集計

＊本荘地区(医学科健康相談室)は水曜午後・木曜・金曜、九品寺地区（保健学科健康相談室）は月曜・火曜・水曜の午前、大江地区（薬学部）健康相談室は第１火曜午後に、看護師が在室

区　分		内科	創傷	外傷	整形	耳鼻	皮膚	婦人	眼科	歯科	検査	相談(看護師対応)	休養	感染対策(実習用)	その他	小計	往診	専門医紹介
学部生	保健センター	1,191	46	12	35	5	21	21	9	4	72	30	30	118	708	2,302	5	75
	本荘(医)	9	2	0	1	0	0	0	0	0	2	8	2	1,874	3	1,901	0	4
	九品寺(保)	2	0	0	0	0	2	0	0	0	2	11	2	290	1	310	0	2
	大江(薬)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3	0	0
大学院生	保健センター	199	5	2	0	1	6	0	1	0	6	7	0	2	144	373	0	4
	本荘(医)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3	0	1
	九品寺(保)	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	0	1	14	1	0
	大江(薬)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0
留学生	保健センター	187	8	4	10	6	15	5	7	3	11	4	2	0	96	358	0	0
	本荘(医)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	1
	九品寺(保)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大江(薬)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職員他	保健センター	256	27	5	26	2	8	13	5	2	0	7	12	26	87	476	2	25
	本荘(医)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	6	0	0
	九品寺(保)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3	0	1
	大江(薬)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
小　計	保健センター	1,833	86	23	71	14	50	39	22	9	89	48	44	146	1,035	3,509	7	104
	本荘(医)	9	2	0	1	0	0	0	0	0	5	12	2	1878	3	1912	0	6
	九品寺(保)	6	0	0	0	0	2	0	0	0	2	16	7	292	2	327	1	3
	大江(薬)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	6	0	0
合　計		1,850	88	23	72	14	52	39	22	9	98	76	53	2,317	1,041	5,754	8	113

４．各種相談業務

令和元年度から、保健センターにもキャンパスソーシャルワーカー（社会福祉士）が配置され、大江・本荘キャンパス（薬学部、保健学科、医学科）にも毎週出向している。概ね万遍なく全部局の学部生及び大学院生のさまざまな相談に対応しており、かなりの対応数となっている。令和２年度は、新型コロナウイルス禍に際し、学生向けのメールによるメンタル相談窓口を開設した。

１）令和２年度　こころの健康相談（精神科医師）

担当：藤瀬医師、菊池医師

	延べ数			実数		
	男	女	計	男	女	計
学部生	495	348	843	77	62	139
院生	254	121	375	38	18	56
留学生	40	122	162	7	8	15
職員	71	80	151	20	20	40
外部（卒業生等）	0	7	7	0	3	3
合計	860	678	1538	142	111	253

２）令和２年度　こころの健康相談（心理士／師）

担当：松尾、高橋、川村、学生支援室井上助教

	延べ数			実数		
	男	女	計	男	女	計
学部生	160	180	340	36	38	74
院生	22	35	57	5	8	13
留学生	1	14	15	1	1	2
職員	3	0	3	2	0	2
外部（卒業生等）	0	0	0	0	0	0
合計	186	229	415	44	47	91

３）令和２年度　キャンパス相談（ｷｬﾝﾊﾟｽｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ）

担当：久保

学生区分	延べ数	実数
学部生	956	199
留学生	64	10
院生	112	22
職員	10	2
合計	1142	233

受付場所	延べ数	実数
保健センター	946	194
本荘（医学）	12	4
本荘（保健）	102	13
大江（薬学）	82	22
合計	1142	233

相談内容区分	延べ数
履修･修学	554
進学･就職	12
生活（経済）	40
人間関係	65
健康	397
心理･性格	70
その他	4
合計	1142

相談者	延べ数
本人	847
家族	13
教員	40
職員	61
保健センター	27
学生支援室	66
学生相談室	21
関係機関	66
その他	1
合計	1142

対応	延べ数
面談	255
学内訪問	11
学外訪問	3
電話	303
メール	570
その他	0
合計	1142

4）令和 2 年度　特別健康相談

担当：学校医（整形外科：藤本徹医師、婦人科：佐々木瑠美医師）

各学校医に年 5 回各 2 時間　　（延べ数）

	学　生	職　員	合　計
整形外科	5	3	8
婦人科	9	0	9

5）令和 2 年度　性に関する相談

担当：看護師・・・・延べ数合計　3 人

5．産業医活動

本学 4 カ所の事業場のうち、3 事業場を保健センター医師が担当しており、藤瀬医師が黒髪事業場、副島医師が本荘大江事業場、菊池医師が京町事業場を担当

【主な産業医活動】

衛生管理者と共に各事業場の職場巡視を行い、作業環境改善などのための助言指導（各 12 回/年）

各事業場の安全衛生委員会に出席・助言指導

職場健診の判定、放射線取扱者に対する被爆判定・指導

特殊健診（有機物など有害物質取扱者）の判定、特定業務健診（有害業務従事者）の判定

産業医面接・健康相談（下表の通り）

	黒髪	京町	本荘大江	大学病院
長時間労働者面接指導	8	0	29	0
ストレスチェック面談	7	0	3	0
職場復帰支援等に関する産業医面接 （関係者打合わせ・就業に関する相談を含む）	44	2	13	2
健康診断事後保健指導	1	0	4	0
合　計	60	2	49	2

６．その他

１）講義

・教育学部　精神保健学　前期８回　藤瀬医師・菊池医師
・新入生総合教養講座（飲酒、喫煙、薬物乱用等）オンライン Moodle にて配信　藤瀬医師と副島医師
・医学教育部（修士・博士）分担講義　前期計５回　副島医師
・医学科分担講義　２回　藤瀬医師

２）出版物

・熊本大学保健センター年報（平成 30・令和元年度分）令和２年８月発行
・熊本大学保健センターだより（年１回発行）令和３年３月発行

３）学内講演会・研修会への講師派遣

・救急蘇生・ＡＥＤ講習会　講師：副島医師（工学部百周年記念館と薬学部２回開催）
・安全衛生講演会「アディクション（依存症）とセルフケアについて」を開催
　司会：藤瀬医師（11 月 13 日）

４）（障がい）学生支援室・学生相談室との連携

・藤瀬医師が（障がい）学生支援室長、副島医師が同副室長を兼務しており、菊池医師を含む３名が（障がい）学生支援室運営委員会委員である。
・（障がい）学生支援室・学生相談室との専門職ミーティング（月１回１時間）に、藤瀬医師、菊池医師、松尾臨床心理士、久保キャンパスソーシャルワーカーが参加
・（障がい）学生支援室定期ミーティング（毎週火曜１時間）に藤瀬医師と副島医師が参加
・合理的配慮検討会アドバイザー（随時）
・学生相談室主催の学生支援検討会アドバイザー（相談のみ２回）
・（障がい）学生支援室主催の「FD・SD 講演会」に参加協力（11 月 17 日）
・学生相談室主催「令和２年度前期復学予定者オリエンテーション」に参加協力（3 月 5 日）

５）学内委員会活動

委員会	藤瀬教授	副島准教授	菊池助教
学生委員会	○		
環境安全センター運営委員会	○		
中央安全衛生委員会化学物質管理専門委員会	○		
放射線障害防止委員会	○	○	
中央安全衛生委員会	○	○	○
新入生スタートアップ講座委員会		○	
医学科 医学教育分野別認証評価領域４ 担当(分担)	○		
遺伝子組み換え生物等第二種使用等安全委員会	○		

６）休日の救護対応

職員採用試験（7/5）、祝日授業(11/23)

AO 入試（10/17、10/18)、学校推薦型選抜Ⅰ及びⅡ（11/28、2/6）
大学入学共通テスト第 1 日程及び第 2 日程（1/16、1/17、1/30、1/31）
一般選抜前期日程試験(2/25、2/26)、後期日程試験（3/12)、追試験（3/22 実施なし）

7）職員に対するインフルエンザワクチン接種

労務課の依頼で実施。ワクチン代は自己負担
（11 月 11 日、11 月 19 日、12 月 2 日、12 月 9 日 合計 1,419 人）

8）新型コロナウイルス感染症対応

・学生・教職員のＰＣＲ検査受検者及び感染者の情報集約
・新型コロナウイルスに関係する健康相談（健康チェックシートの確認含む）対応
・学生向けメンタル相談窓口（メール）の開設 5 月 15 日通知
・熊本（7 月）豪雨災害ボランティア参加者への問診及び PCR 検査検体採取
（7 月 13 日～3 月 26 日の期間で延べ 48 回、学生 275 人、教職員 73 人に実施。PCR 検査は、大学病院中央検査部に依頼、検査料は学内予算）
・新型コロナウイルス感染防止について注意喚起（3 回目）12 月 11 日通知
・学内新型コロナウイルス感染症対策会議に、藤瀬センター長及び副島医師が出席（随時）

9）保健センターホームページの更新（随時）

48号　令和3年3月31日発行

・Kumamoto University Health Care Center・



熊本大学 保健センターだより

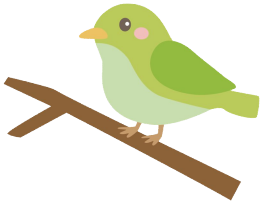
保健センターのホームページ　http://hcc.kumamoto-u.ac.jp/
保健センターへの直通電話　　096-342-2164

大学生のステイホーム

保健センター長　藤瀬昇

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。昨年の今頃は新型コロナウイルス感染症による異例尽くめの中、入学式、対面講義、サークル活動などが次々と中止され、なかなか「入学おめでとう！」と言える雰囲気ではありませんでした。熊本大学の新入生は、県外出身者が4分の3を占めていて、9月に実施した学生健診でも、新入生からは「せっかく大学入学したのに、、」との悲痛な声が多く聞かれました。今年も未だ感染状況は読めないところがありますが、現時点で、条件付きですがサークル活動も再開され、規模を縮小した上での入学式も行われるようで、何より待望のワクチン接種が始まりましたので、少しずつですが閉塞感は和らいでいくものと思われます。ただし、油断は禁物です。非常事態の始まりから少し遅れて現れてくるのがメンタルヘルスの問題です。専門学会が提言している、with コロナにおけるメンタルヘルスケアのポイントを以下に示します。

ＣＯＶＩＤ-１９流行下におけるメンタルヘルス対策指針
第１版（2020 年 6 月 25 日）を一部改変



・健康的な生活を維持する
・信頼できる情報を得て、情報過多を避ける
・他者とのつながりを保つ
・ストレス対処法を身につける
・相談する

日本精神神経学会
日本児童青年精神医学会
日本災害医学会
日本総合病院精神医学会
日本トラウマティック・ストレス学会

オンライン授業のため生活のメリハリがつきにくく、ついつい時間の管理がおろそかになりがちで、一人暮らしの場合はなおさらです。生活リズムの上で大事になってくるのが睡眠です。良い睡眠リズムのコツは「朝は遅くまで寝ていない」です。少々寝不足でも朝は定刻に起きて、昼寝は我慢しましょう。夜間の睡眠だけを切り取るのではなく、日中の過ごし方がポイントです。やるべき事は日中に取組みましょう。自宅で出来る運動はもちろん、公園等で密にならずに身体を動かすのも良いでしょう。対面で語り合うことは自粛しないといけませんが、取るべきは心理的距離ではなく物理的距離です。IT 機器を活用して、親しい人とのコミュニケーションは活発に行いましょう。不安は緊張を生じます。YouTube で「社会応援ネットワーク」と検索すればいろんなリラクゼーションの動画を観ることが出来ます。参考にしてみてください。自分なりの気晴らしやリラックス時間は大事ですが、自宅で過ごす時間が長くなることで、ゲームやインターネットに費やす時間も長くなりがちです。少なくとも自粛前と同じ時間・量・程度にとどめるようにしましょう。

各キャンパスにおける健康相談などの利用時間一覧は下記の通りです。保健センターでは、昨年度からメールによるメンタルヘルス相談の受付けを始めました。援助を求めることは大切な能力です。不安や心配があったら遠慮なく、下記へメールしてください。

〈cocorohoken@jimu.kumamoto-u.ac.jp〉

【各地区健康相談等の利用案内】

	場所	時間帯	連絡先
保健センター （医師・看護師・心理士・ ｷｬﾝﾊﾟｽｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ）	黒髪北キャンパス	平日　8:30～17:15	096-342-2164
医学部健康相談室 （看護師）	保健学科教務隣	月曜・火曜 9:00～16:00 水曜　9:00～12:00	096-373-6114
	医学教育図書棟 4F	水曜　13:00～16:00 木曜・金曜 9:00～16:00	096-373-5004
医学部キャンパス相談室 （ｷｬﾝﾊﾟｽｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ）	医学教育図書棟 4F 健康相談室内	火曜　9:00～12:00	096-373-5004
	保健学科教務隣 健康相談室内	木曜　9:00～12:00	096-373-6114
薬学部健康相談室 （看護師）	育薬ﾌﾛﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ	第 1 火曜 13:00～17:15	内線 4753 096-342-2164
薬学部キャンパス相談室 （ｷｬﾝﾊﾟｽｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ）	薬学部ﾘｴｿﾝｵﾌｨｽ （蕃滋館 2F）	毎週水曜 9:00～12:00	内線 4771 096-342-2164

新型コロナウイルス感染防止について

保健センター准教授　副島弘文

新入生の皆さん。入学おめでとうございます。

2020 年から世界的な流行を認める新型コロナウイルス感染症 COVID-19 ですが、2021 年も十分な対応が必要なようです。熊本大学でも種々の対策を立てていますので、新入生の皆さんも協力をお願いします。熊本大学のホームページのトップにある『新型コロナウイルスに関する重要なお知らせ』の中の『新型コロナウイルスに関する対応について』にその時の対応方針の最新版が掲載されていますので確認してください。新型コロナウイルス対応の新しい生活様式の実践例や健康管理の方法、公的機関の相談窓口の連絡先も掲載されています。保健センターにも遠慮なく相談してください。健康チェックシート（Health Check Sheet）もそこに掲載されています。自覚症状があったり、感染者と接触の可能性があったり、感染した場合は健康チェックシートの記載および保健センターへの提出をお願いすることがあります。

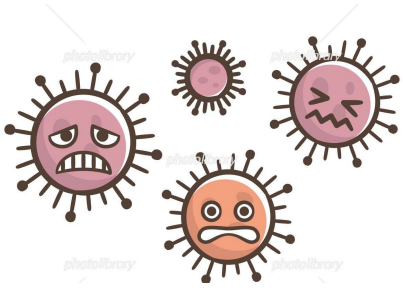
新型コロナウイルスへの感染機会は主なものとして飲食時などマスクをつけていないときに会話をする場合と新型コロナウイルスのついたドアノブなどを触った手を洗わずに飲食したり、目や口を触ったりする場合などがあります。これらをやめることですべての感染を防げるわけではありませんが、大きく可能性を減らすことが出来ます。

テーブルに隣同士に座らないように、また、差し向かいに座ることがないように工夫されている食堂をよくみかけます。これは他人と接触しないように、あるいは、出来るだけ距離をとるようにするためです。食事中でも会話をする時は出来るだけマスクをしてからがよいです。さらに、食事に関係なく、マスクをしていても大声で話すことは避けましょう。

手洗いも重要です。ドアノブやエレベータのボタンなど不特定多数の人が触れる物を触ったあとは手を洗うことをおすすめします。新型コロナウイルスは数時間から数日間そういった物の表面で生存できるとされています。特に飲食の前はしっかり手洗いをしてください。

発症の前 2 日間は無症状でも他人に新型コロナウイルスをうつす危険性があります。無症状でも自分が既にウイルスを持っている可能性があることを念頭に行動してください。3 密を避けるとよくいわれていますが、これは集団感染を生じないために大変重要なことです。3 密の内容を以下に示しますが、これらを避けるように行動してください。

密閉：空気の入れ換えが出来ない場所に集まること
密集：商業施設や学校やイベント会場など一カ所に
　　近い距離で人が集まること
密接：お互いに手が届くような距離での会話や発声や
　　スポーツをすること



誰でもがその可能性はありますが、もし感染してしまったら保健所や担当医の指示に従いしっかり良くなって復帰してください。回復したと診断された後の心配事やまだ自覚症状が残っている場合などは遠慮なく保健センターに相談してください。たとえ感染しても一定期間が過ぎると他人にうつす可能性はなくなりますので、正しく理解して不当な差別が生じないようにすることも重要なことです。

ワクチンの接種も始まっていますので、各人の感染症対策と併せて流行が収まってくれることを望みます。みんなで協力して乗り切りましょう。

心と身体の SOS に気づく

保健センター臨床心理士　松尾秀寿

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。4 月から新しい生活が始まりますね。みなさんは期待と不安のどちらが大きいでしょうか。

一般的に、周囲の環境が大きく変化すると、心身にはそれなりの負荷がかかります。そうした負荷に対して、心と身体は自分自身を守るためのさまざまな反応を起こします。反応には個人差がありますが、人によっては生きづらさを感じたり、気分が沈んだり、不安や疲れを感じやすくなったり、睡眠のリズムが乱れたりといったことも起こります。これらの反応は、いわば自分自身の心と身体が発する SOS のメッセージです。

本来、人間やその他の生物には、このような心身からのメッセージを受け取り、自分自身をより良い状態に保とうとする機能が備わっています。ところが現代人は大脳で考えることに特化しすぎていて、心身が発するメッセージに気づかないことも多いのです。とは言っても、神経や脳が退化しているわけではありませんので、ほとんどの人は少し練習するだけでこの能力を取り戻すことができます。みなさんも忙しいとは思いますが、ほんの 5 分でも 10 分でもいいので、ゆっくりと自分自身の身体の感覚に意識を向けてみてください。そして、できるだけ早い段階で心身の疲れや異常に気づけるようになりましょう。

もし、自分ひとりでは対処が難しいと感じたときには、どうぞご遠慮なく保健センターにご相談ください。みなさんが心身ともに健康に、無事卒業の日を迎えられることを祈っています。

「昨年からメール相談を始めました」

キャンパスソーシャルワーカー　久保　裕恵

新入生の皆さん　ご入学おめでとうございます。
大学での新たな出逢いに期待と不安が入り混じった気持ちかと思います。

私は保健センターでキャンパスソーシャルワーカーをしています。
「キャンパスソーシャルワーカー」とは簡単に説明すると、「なんでも屋」です。
例えば、履修などの就学上の手続き、体調管理や金銭管理など今までは保護者や学校の先生がしていたことを自分でしていく機会が増えていくかと思います。その際に出てきた困り事について、一緒に解決の方法を探していきます。また、話をただ聞いてほしいといった相談でも構いません。

保健センターでは、昨年 5 月からメールでの相談も受け付けています。
些細なことでも構いませんので、cocorohoken@jimu.kumamoto-u.ac.jp　までお気軽に
ご連絡していただけたらと思います。

令和3年度

１．健康診断業務

１）令和３年度学生定期健康診断　学部・学年別受診率

区分		学生現員			内科受診						胸部デジタル撮影（4月）			令和2年	令和1年
					受診者			受診率			受診者			率	率
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	計	計
文学部	1年	70	130	200	62	119	181	88.6	91.5	90.5	87.1	90.0	89.0	31.6	80.6
	2年	64	114	178	44	87	131	68.8	76.3	73.6	0.0	0.0	0.0	11.7	68.1
	3年	73	130	203	29	77	106	39.7	59.2	52.2	0.0	1.5	1.0	7.6	31.0
	4年	71	153	224	43	113	156	60.6	73.9	69.6	0.0	2.6	1.8	16.7	61.0
小　計		278	527	805	178	396	574	64.0	75.1	71.3	21.9	23.3	22.9	17.5	61.9
教育学部	1年	93	163	256	85	157	242	91.4	96.3	94.5	88.2	96.3	93.4	46.6	80.6
	2年	85	156	241	79	156	235	92.9	100.0	97.5	1.2	0.0	0.4	66.8	97.6
	3年	98	145	243	91	141	232	92.9	97.2	95.5	3.1	0.7	1.6	85.1	96.4
	4年	121	150	271	96	135	231	79.3	90.0	85.2	4.1	2.0	3.0	60.1	85.3
小　計		397	614	1,011	351	589	940	88.4	95.9	93.0	22.9	26.2	24.9	64.0	88.9
法学部	1年	119	102	221	116	99	215	97.5	97.1	97.3	97.5	97.1	97.3	34.8	87.5
	2年	127	105	232	90	77	167	70.9	73.3	72.0	0.0	0.0	0.0	4.7	24.0
	3年	96	114	210	71	86	157	74.0	75.4	74.8	0.0	0.0	0.0	3.7	44.4
	4年	130	113	243	93	80	173	71.5	70.8	71.2	0.0	0.0	0.0	27.2	72.1
小　計		472	434	906	370	342	712	78.4	78.8	78.6	24.6	22.8	23.7	17.7	57.9
理学部	1年	146	58	204	139	57	196	95.2	98.3	96.1	94.5	96.6	95.1	27.4	94.9
	2年	161	60	221	113	55	168	70.2	91.7	76.0	0.0	0.0	0.0	19.7	51.1
	3年	172	49	221	108	39	147	62.8	79.6	66.5	0.0	0.0	0.0	20.7	50.5
	4年	141	49	190	118	44	162	83.7	89.8	85.3	0.0	0.0	0.0	18.4	83.2
小　計		620	216	836	478	195	673	77.1	90.3	80.5	22.3	25.9	23.2	21.6	69.4
医学部	1年	101	162	263	95	160	255	94.1	98.8	97.0	93.1	98.8	96.6	45.9	98.2
	2年	131	149	280	115	147	262	87.8	98.7	93.6	63.4	24.2	42.5	85.1	96.2
	3年	121	154	275	118	153	271	97.5	99.4	98.5	72.7	22.1	44.4	83.1	92.3
	4年	116	156	272	106	152	258	91.4	97.4	94.9	69.8	23.1	43.0	79.2	94.3
	5年	78	43	121	75	42	117	96.2	97.7	96.7	96.2	97.7	96.7	83.8	93.4
	6年	74	35	109	65	33	98	87.8	94.3	89.9	86.5	85.7	86.2	55.2	92.4
小　計		621	699	1,320	574	687	1,261	92.4	98.3	95.5	78.1	48.4	62.3	72.6	94.9
薬学部	1年	67	50	117	51	39	90	76.1	78.0	76.9	76.1	78.0	76.9	44.2	86.7
	2年	60	36	96	56	36	92	93.3	100.0	95.8	0.0	0.0	0.0	8.2	93.8
	3年	48	49	97	38	46	84	79.2	93.9	86.6	0.0	0.0	0.0	21.2	61.3
	4年	45	51	96	38	44	82	84.4	86.3	85.4	0.0	0.0	0.0	17.2	85.7
	5年	19	31	50	18	30	48	94.7	96.8	96.0	94.7	93.5	94.0	95.0	98.2
	6年	31	28	59	30	28	58	96.8	100.0	98.3	0.0	0.0	0.0	24.6	93.3
小　計		270	245	515	231	223	454	85.6	91.0	88.2	25.6	27.8	26.6	32.2	85.2
工学部	1年	412	116	528	395	114	509	95.9	98.3	96.4	94.4	97.4	95.1	28.5	93.1
	2年	413	111	524	294	96	390	71.2	86.5	74.4	0.2	0.0	0.2	7.2	56.1
	3年	461	103	564	294	79	373	63.8	76.7	66.1	7.8	1.9	6.7	7.5	44.7
	4年	571	123	694	378	97	475	66.2	78.9	68.4	0.7	0.8	0.7	18.8	68.0
小　計		1,857	453	2,310	1,361	386	1,747	73.3	85.2	75.6	23.2	25.6	23.6	15.6	65.5
多言語文化総合教育センター	1年	5	3	8	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
小　計		5	3	8	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
養護教諭特別別科	1年	1	39	40	1	39	40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	95.1	100.0
小　計		1	39	40	1	39	40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	95.1	100.0
教育学研究科		43	26	69	35	17	52	81.4	65.4	75.4	14.0	15.4	14.5	24.3	59.1
保健学教育部		38	50	88	21	20	41	55.3	40.0	46.6	31.6	24.0	27.3	23.4	39.1
自然科学教育部		915	177	1,092	605	123	728	66.1	69.5	66.7	1.1	1.7	1.2	32.8	72.4
社会文化科学教育部		153	166	319	20	19	39	13.1	11.4	12.2	5.9	1.8	3.8	5.3	20.2
自然科学研究科		16	2	18	2	0	2	12.5	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	3.8	33.3
医学教育部		298	136	434	54	34	88	18.1	25.0	20.3	12.8	19.1	14.7	16.2	27.9
薬学教育部		91	58	149	60	40	100	65.9	69.0	67.1	5.5	1.7	4.0	25.5	66.7
特別支援教育特別専攻科		7	4	11	6	4	10	85.7	100.0	90.9	85.7	100.0	90.9	87.5	75.0
小　計		1,561	619	2,180	803	257	1,060	51.4	41.5	48.6	5.5	8.6	6.4	24.2	52.9
合　計		6,082	3,849	9,931	4,347	3,114	7,461	71.5	80.9	75.1	24.3	27.4	25.5	32.1	69.6
留学生		287	188	475	114	70	184	39.7	37.2	38.7	12.9	11.2	12.2	17.4	55.2

＊胸部Ｘ線撮影４月対象者は、「学部１年生」・「熊大入学初年度の学生」及び一部の「本年度の病院実習予定者」・「本学附属学校等での教育実習予定者」　＊集計の留学生は、内数

＊新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和２年度は受診率が大きく落ち込んだが、今年度は感染予防に配慮しながら４月に予定通り実施できた為、受診率は 75.1%と回復した。

2）令和３年度　学生定期健康診断　胸部Ｘ線撮影２月期実施

教育実習対象者及び病院実習対象者（医学部保健学科）に対して、新年度４月からの実習に間に合うように例年２月上旬に実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大（第６波）のため、３月１～２日に延期して実施した。尚、保健学科看護２年生については、学内実習と重なった為、令和４年度４月に実施予定

区分		胸部デジタル撮影(2月期)		
		受診者		
		男	女	計
文学部	3年	7	9	16
教育学部	1年	67	142	209
	2年	58	128	186
	3年	78	128	206
	4年	0	1	1
理学部	2年	14	2	16
	3年	28	5	33
医学部（保健学科）	1年	23	98	121
	2年	26	40	66
	3年	26	109	135
工学部	3年	4	0	4
合　計		342	671	1,013

3）令和３年度　学生定期健康診断　尿検査

実施者	卒業予定者(4月)		1年次生(7月)	
区分	受診者	異常者	受診者	異常者
文学部	131	3	145	11
教育学部	207	8	201	8
法学部	139	5	179	6
理学部	151	5	148	5
工学部	445	6	407	7
医学部	239	12	240	11
薬学部	85	4	86	6
養護教諭特別別科	0	0	40	1
小　計	1,397	43	1,446	55
教育学研究科	10	1	－	－
保健学教育部	16	1	－	－
自然科学教育部	383	13	－	－
社会文化科学教育部	22	2	－	－
自然科学研究科	2	0	－	－
医学教育部	9	2	－	－
薬学教育部	33	1	－	－
特別支援教育特別専攻科	0	0	－	－
小　計	475	20	－	－
合　計	1,872	63	1,446	55

4）令和 3 年度　学生定期健康診断　精密検査

	該当者	欠席者	異常なし	放置可	経過観察	要精密	要治療	治療中	受診率
循環器	14	2	2	6	4	0	0	0	85.7%
貧血	6	3	2	0	0	1	0	0	50.0%
リンパ節	5	1	1	3	0	0	0	0	80.0%
甲状腺	2	0	1	0	1	0	0	0	100.0%
代謝内科（BMI35以上）	27	14	1	0	9	3	0	0	48.1%
整形外科	1	0	0	0	0	1	0	0	100.0%
婦人科	9	6	0	0	0	2	0	1	33.3%
胸部Ｘ線(4月･3月)	11	0	3	2	2	4	0	0	100.0%
血液検査	38	19	7	0	10	2	0	0	50.0%
尿検査	122	43	60	0	3	15	0	1	64.8%
			(2)						
	235	88	77	11	29	28	0	2	62.6%

（　)は、本荘・九品寺・大江地区健康相談室での実施件数で、内数

＊胸部Ｘ線検査 2 月期は、新型コロナウイルス感染症第 6 波の影響で 3 月に延期したため、精密検査が終了していない学生が 4 名。現在検査結果が判明している人の中に、結核や悪性疾患はなし。

【血圧再検査について】

① 5 月～6 月の都合の良いときに来所するようアナウンス

収縮期血圧 140mmHg 以上、及び 80mmHg 未満、拡張期血圧 90mmHg 以上を対象

該当者　1,078 人

受検者　236 人

指導を必要とした者　21 人

② 上記①受検者のうち、収縮期血圧 160mmHg 以上、又は、拡張期血圧 95mmHg 以上の学生については、10 月に封書にて受検を促した。

該当者　181 人

受検者　98 人

指導を必要とした者　16 人

5）学生定期健康診断時に実施する疲労蓄積度調査及び調査にもとづく学生面談

疲労蓄積度調査回答 6,815 人のうち、メンタル不調及び相談希望学生 776 人へメールにて精神科医師・臨床心理士との面談を促した。全体の来談者数 99 人（既に通所中 52 人含む）

6）令和 3 年度　放射線取扱者（学生）の健康診断

担当：副島医師

① 対象学生

4 月期：新たに放射線を取り扱う学生

7 月期：平成 2 年度 1 月期及び令和 3 年度 4 月期に健康診断を受診した学生
並びに新たに放射線を取り扱う学生

10 月期：新たに放射線を取り扱う学生

1 月期（新型コロナウイルス感染症第 6 波のため 3 月に延期）：

令和 3 年度 7 月期及び同年度 10 月期に健康診断を受診した学生

並びに新たに放射線を取り扱う学生

② 健康診断実施方法

放射線取扱者健康診断問診票による皮膚・眼及び被爆状況等の問診並びに血液検査

	4月期	7月期	10月期	3月期	計
教育学部	0	0	3	3	6
理学部	18	13	3	12	46
医学科・医学教育部	7	16	0	19	42
保健学科・保健学教育部	2	94	2	120	218
薬学部・薬学教育部	105	111	3	82	301
工学部	62	66	11	50	189
自然科学研究科・教育部	18	140	3	71	232
合計	212	440	25	357	1,034

7）令和 3 年度　5 月以降入学学生の健康診断

11 月 22 日実施

検査項目	受検者数	異常あり	備　考
身体計測･血圧・内科	人 9	人 3	内科 1 人（甲状腺機能低下症） 眼科 1 人、耳鼻科 1 人
胸部 X 線撮影	9	0	
検尿	8	2	異常なし 1 人 異常あり 1 人→尿糖 2 ＋にて専門病院紹介

＊新型コロナウイルス感染症の影響で、留学生の入国が制限されていた為、受検者が少なかった。

8）令和 3 年度　体育会系学生貧血検査及び特別健康診断（希望者）

貧血検査（血液一般・血清鉄）

受検者　5 人（異常なし 4 人、経過観察 1 人）　10 月 14 日実施

特別健康診断（内科・検尿等）

空手部　4 人（全員異常なし）　9 月 28 日実施

9）令和 3 年度　健康診断証明書発行

	日本語	英文
保健センター	235 枚	3 枚
ポータル証明書発行システム	1,026 枚	40 枚
合　計	1,261 枚	43 枚

２．病院実習のための感染症予防対策

病院実習が必要な医学部医学科・保健学科、薬学部薬学科、教育学部養護教諭養成課程において、各施設より求められた基準に基づき感染症予防対策を行っている。

１）４種ウィルス（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査及びワクチン接種

抗体検査については、希望者（全学対象）に実施。費用は、自己負担
（6 月 23 日 239 人、10 月 14 日 50 人、その他医学部・薬学部・教育学部養護教諭養成課程主体で実施 373 人）

ワクチン接種については、各自病院で受けるように指導

２）結核に関する検査（胸部Ｘ線）

定期健康診断時の胸部Ｘ線受検を義務化

３）インフルエンザ予防接種

医学部医学科と保健学科が、学部学科主体で実施。医学部健康相談室看護師が応援。
教育学部は、学部（外注）にて実施

４）Ｂ型肝炎ワクチン接種

学部学科の依頼で実施。経費は、学部又は学生負担、

対　象	区　分	実施者数	備　考
医学部 医学科 3 年	後採血(R3.4.14)	115	110 名に抗体（＋） 抗体陰性者 5 名には、2 クール目を実施
医学部 医学科 2 年	前採血(R3.6.1) 1 回目(R3.6.29) 2 回目(R3.7.27) 3 回目(R3.11.30) 後採血(次年度に延期)	113 114 109 109	ワクチン接種必要なし 4 名、希望しない 1 名 3 年生 2 クール目 5 名追加 5 名外部接種 4 名外部接種、1 名休学にて未接種
医学部 保健学科 看護 1 年 検査 3 年 放射 3 年	前採血(R3.4.7) 1 回目(R3.6.3) 2 回目(R3.7.1) 3 回目(R3.11.11) 後採血(R3.12.23)	142 130 130 136 137	ワクチン接種必要なし 3 名 9 名外部接種 9 名外部接種 2 名外部接種、1 名休学にて未接種 134 名に抗体（＋）、1 名未受検
教育学部 養教 1 年	前採血(R3.4.27) 1 回目(R3.6.15) 2 回目(R3.7.13) 3 回目(R3.11.30) 後採血(次年度に延期)	33 27 27 27	ワクチン接種必要なし 1 名、希望しない 6 名 前年度未接種 1 名追加

薬学部 薬学科 4 年	前採血(R3.4.28) 1 回目(R3.10.12) 2 回目(R3.11.9) 3 回目(R4.3.1) 後採血(R4.4 月予定)	58 54 51 52	ワクチン接種必要なし 3 名 前年度未完了者 2 名追加 外部接種 3 名 外部接種 6 名 外部接種 4 名、休学の為未接種 1 名

注：前採血　GOT・GPT・HBs 抗原・HBs 抗体
後採血　HBs 抗体（定量）

5）1）～4）の指導

入学時に 4 種ウイルスワクチン接種記録の入力作業及び入学後に必要なワクチン接種の指導。全ての対策が完了するまで、継続的な個別指導

6）データ管理と感染症対策証明書発行

感染症対策データを保健センター内サーバにて管理
令和 3 年度　感染症対策証明書発行枚数　4,019 枚

3．日常受診業務（健康相談・応急処置等）

令和 3 年度　日常受診一覧

担当：内科医師（副島）及び看護師
＊学生区分は、留学生を優先して集計
＊本荘地区(医学科健康相談室)は水曜午後・木曜・金曜、九品寺地区（保健学科健康相談室）は月曜・火曜・水曜の午前、大江地区（薬学部）健康相談室は第 1 火曜午後に、看護師が在室

区 分		内科	創傷	外傷	整形	耳鼻	皮膚	婦人	眼科	歯科	検査	相談(看護師対応)	休養	感染対策(実習用)	その他	小計	往診	専門医紹介
学部生	保健センター	1,984	41	33	30	11	37	19	12	1	71	47	67	280	679	3,312	6	92
	医学科健康相談室	9	0	0	0	0	1	2	0	0	33	4	7	1378	2	1,436	0	2
	保健学科健康相談室	2	2	0	0	0	0	0	0	0	13	3	2	451	0	473	0	1
	薬学部健康相談室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	2	0	19	0	0
大学院生	保健センター	227	8	4	0	2	4	1	2	1	15	6	2	2	83	357	0	14
	医学科健康相談室	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0
	保健学科健康相談室	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	5	0	0	11	0	0
	薬学部健康相談室	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0
留学生	保健センター	120	1	1	4	7	12	1	8	1	9	1	0	0	90	255	0	33
	医学科健康相談室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	2	7	0	1
	保健学科健康相談室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬学部健康相談室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職員他	保健センター	436	11	9	22	2	15	5	9	0	1	9	17	23	92	651	1	23
	医学科健康相談室	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	5	0	0
	保健学科健康相談室	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5	1	0
	薬学部健康相談室	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
小 計	保健センター	2,767	61	47	56	22	68	26	31	3	96	63	86	305	944	4,575	7	162
	医学科健康相談室	11	0	0	0	0	1	2	0	0	39	5	7	1382	4	1,451	0	3
	保健学科健康相談室	6	2	0	0	0	0	0	0	0	16	5	8	451	1	489	1	1
	薬学部健康相談室	2	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	2	0	23	0	0
合 計		2,786	63	47	56	22	69	28	31	3	170	73	101	2,140	949	6,538	8	166

４．各種相談業務

令和元年度から、保健センターにもキャンパスソーシャルワーカー（社会福祉士）が配置され、大江・本荘キャンパス（薬学部、保健学科、医学科）にも毎週出向している。概ね万遍なく全部局の学部生及び大学院生のさまざまな相談に対応しており、かなりの対応数となっている。令和２年５月には、新型コロナウイルス禍に際し、学生向けのメールによるメンタル相談窓口を開設し、メールでの相談にも対応している。また、状況に応じて Zoom での面談も実施している。令和３年度は、こころの健康相談全体（医師、心理士／師、ｷｬﾝﾊﾟｽｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ）の実数が 427 人と前年度に比べ 111 人増加した。うち、新規相談者数は、282 人（66%）だった。

１）令和３年度　こころの健康相談（精神科医師）

担当：藤瀬医師、長岡医師

	延べ数			実数		
	男	女	計	男	女	計
学部生	590	415	1005	104	118	222
院生	180	114	294	32	20	52
留学生	23	102	125	12	9	21
職員	113	80	193	35	24	59
外部（卒業生等）	0	5	5	0	4	4
合計	906	716	1622	183	175	358

２）令和３年度　こころの健康相談（心理士／師）

担当：松尾、川村、学生支援室井上助教

	延べ数			実数		
	男	女	計	男	女	計
学部生	111	201	312	40	60	100
院生	29	111	140	9	15	24
留学生	8	16	24	2	4	6
職員	0	4	4	1	2	3
外部（卒業生等）	0	0	0	0	0	0
合計	148	332	480	52	81	133

３）令和３年度　キャンパス相談（ｷｬﾝﾊﾟｽｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ）

担当：久保

学生区分	延べ数	実数
学部生	752	244
留学生	15	4
院生	158	55
職員	5	3
合計	930	306

受付場所	延べ数	実数
保健センター	859	267
本荘（医学）	12	8
本荘（保健）	41	23
大江（薬学）	18	8
合計	930	306

相談内容区分	延べ数
履修・修学	518
進学・就職	18
生活（経済）	11
人間関係	34
健康	202
心理・性格	74
その他	73
合計	930

相談者	延べ数
本人	700
家族	14
教員	72
職員	30
保健センター	19
学生支援室	47
学生相談室	27
関係機関	21
その他	0
合計	930

対応	延べ数
面談	408
学内訪問	10
学外訪問	2
電話	227
メール	283
その他	0
合計	930

4）令和 3 年度　特別健康相談

担当：学校医（整形外科：藤本徹医師、婦人科：佐々木瑠美医師）

各学校医に年6回各2時間の予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で下記回数となった。

（延べ数）

	学　生	職　員	合　計
整形外科（4 回）	4	3	7
婦人科（3 回）	10	0	10

5）令和 3 年度　性に関する相談

担当：看護師・・・・延べ数合計　2 人

5．産業医活動

本学 4 カ所の事業場のうち、3 事業場を保健センター医師が担当しており、令和 3 年度は、藤瀬医師が黒髪事業場と京町事業場、副島医師が本荘大江事業場を担当

【主な産業医活動】

・衛生管理者と共に各事業場の職場巡視を行い、作業環境改善などのための助言指導（各事業場に 12 回／年）

・各事業場の安全衛生委員会に出席・助言指導

・職場健診の判定、放射線取扱者に対する被爆判定・指導

・特殊健診（有機物など有害物質取扱者）の判定、特定業務健診（有害業務従事者）の判定

産業医面接・健康相談（下表の通り）

	黒髪	京町	本荘大江	大学病院
長時間労働者面接指導	13	0	11	0
ストレスチェック面談	9	0	0	0
職場復帰支援等に関する産業医面接（関係者打合わせ・就業に関する相談を含む）	42	0	17	0
健康診断事後保健指導	0	0	11	0
合　計	64	0	39	0

６．その他

１）講義

・教育学部　精神保健学　前期８回　藤瀬医師・長岡医師
・新入生総合教養講座（飲酒、喫煙、薬物乱用等）オンライン Moodle にて配信　藤瀬医師と副島医師
・医学教育部（修士・博士）分担講義　前期計５回　副島医師
・医学科分担講義　２回　藤瀬医師

２）出版物

・熊本大学保健センターだより（年１回発行）令和４年３月発行
・熊本大学保健センター年報（令和２年度・令和３年度分）令和４年７月発行予定

３）学内講演会・研修会への講師派遣

・救急蘇生・ＡＥＤ講習会　講師：副島医師（工学部百周年記念館と薬学部２回開催）
・附属小・中学校メンタルヘルス講演会　講師：長岡医師（２月 21 日）

４）（障がい）学生支援室・学生相談室との連携

・藤瀬医師が（障がい）学生支援室長、副島医師が同副室長を兼務しており、長岡医師を含む３名が（障がい）学生支援室運営委員会委員である。
・（障がい）学生支援室・学生相談室との専門職ミーティング（月１回１時間）に、藤瀬医師、長岡医師、川村心理師、久保キャンパスソーシャルワーカーが参加
・（障がい）学生支援室定期ミーティング（毎週火曜１時間）に藤瀬医師と副島医師が参加
・合理的配慮検討会アドバイザー（随時）
・学生相談室主催の学生支援検討会（３回）
・（障がい）学生支援室主催の「FD・SD 講演会」に参加協力（11 月 11 日）
・学生相談室主催「令和３年度前期復学予定者オリエンテーション」に参加協力（３月７日）

５）学内委員会活動

委員会	藤瀬教授	副島准教授
学生委員会	○	
環境安全センター運営委員会	○	
中央安全衛生委員会化学物質管理専門委員会	○	
放射線障害防止委員会	○	○
中央安全衛生委員会	○	○
遺伝子組み換え生物等第二種使用等安全委員会	○	

６）休日の救護対応

職員採用試験（7/4）、祝日授業(7/22、7/23、11/23)
総合型選抜(GLC)入試（10/9、10/10）、学校推薦型選抜Ⅰ及びⅡ（11/27、2/5）
大学入学共通テスト第１日程及び第２日程（1/15、1/16、1/29、1/30）
一般選抜前期日程試験(2/25、2/26)、後期日程試験（3/12）、追試験（3/22）

７）職員に対するインフルエンザワクチン接種

労務課の依頼で実施。ワクチン代は自己負担

（12 月 8 日、10 日、14 日、16 日 合計 1,227 人）

８）新型コロナウイルス感染症対応（対応数は、３の日常受診数に含まれている。）

・学生・教職員のＰＣＲ検査受検者及び感染者の情報集約

・新型コロナウイルスに関する健康相談（健康チェックシートの確認含む）対応（延べ 1,693 件）

・新型コロナウイルスワクチン職域接種（1 回目、2 回目）への協力・応援

8 月 18 日～10 月 15 日の計 26 日間に、医師 1 人（現場総括及び接種後待機室救護）と看護師 1 人（打ち手又は接種後の待機室救護）が毎回応援

・新型コロナワクチンに関する相談窓口対応（延べ 102 件）

・熊本豪雨災害（2020 年 7 月）ボランティア参加者への問診及び PCR 検査検体採取

今年度は延べ 42 回設定し、学生 46 人、教職員 8 人が受検。PCR 検査は、大学病院中央検査部に依頼し、検査料は学内予算

９）保健センターホームページの更新（随時）

49号　令和４年３月31日発行

・Kumamoto University Health Care Center・



熊本大学 保健センターだより

保健センターのホームページ　http://hcc.kumamoto-u.ac.jp/
保健センターへの直通電話　　096-342-2164

「困ったときは誰かに相談しましょう」

保健センター長　藤瀬昇

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの多くは高校生活の半分以上をコロナ禍の中で過ごしてきたことになり、すでに新しい生活様式に慣れている人も多いのかも知れません。熊本大学保健センターは高校までの保健室みたいなところで、医師３名、看護師３名、キャンパスソーシャルワーカー1名、心理士(師)2名（週１日ずつ）が常駐し、皆さんの心身の不調に対応しています。無料なので、保険証は要りません。各キャンパスにも毎週定期的に出向いていますので、詳しくはホームページで確認してください。メンタル面の相談はメール（cocorohoken@jimu.kumamoto-u.ac.jp）でも受け付けています。状況に応じてオンライン面談にも対応していますので、どうぞ気軽に利用してください。困ったときに誰かに相談するのはとても大切な能力です（援助希求能力ともいわれています)。熊本大学における学生支援体制を下記に示します。熊本大学の場合、概ね新入生の４分の３が県外出身者です。高校まではおそらく周りの人たちが見守ってくれていたと思いますが、一人暮らしになったらそういう訳にもいきません。是非、大学生のうちから誰かに相談する練習をしておきましょう。新型コロナウイルスはなかなかしぶといようですが、ヒトの適応能力を最大限に発揮して乗り切りましょう。３密は避け、こころは親密に！

- 学生生活課および各学部教務担当
- 学生相談室：何でもよろず相談
- 学生支援室：修学に関する相談
- 保健センター：心身の健康に関する相談

コロナ禍での健康管理

保健センター准教授　副島弘文

「コロナ禍」、2 年ほどはこの言葉がいたるところに溢れていて、もううんざりと感じている人がほとんどだと思います。

長い間、外出を控えることが求められるようになりました。旅行、飲食、買い物、エンターテイメントのための外出抑制が主ですが、出勤や登校も在宅勤務やオンライン授業や講義となってしまい抑制されました。これらの目的は感染者の移動の回避・人前でマスクを外す機会の回避・人と人との接触の回避・密な状況の回避により感染者が急激に増加することを防ぐことにあります。急激な感染者の増加があると、まず命を落とす者が増える可能性と病院が対応しきれなくなり、医療が行きわたらなくなる可能性があります。さらに担い手が不足することで輸送・行政サービスなどに支障をきたすと、私たちの生活は大変な状況に直面することになります。

しかし、感染機会は減らしながらも私たちは健康を維持していく必要があります。運動や趣味でも外出自粛をしている人が多くなってきていると思いますが、身体面からも精神面からも過度に外出や人との交流を控えることは良いとは言えません。マスクをつけて手指消毒をして屋外で何かするというのであれば感染する可能性はほとんど上がらないと思います。

運動面では、マスクがあると苦しい人はウォーキング中に人としゃべらないということを前提にマスクを外すことも考慮していいと思います。し速歩きとなる散歩をよりおすすめします。また、太陽の下で景色を見ながら歩くのもいいと思います。時には車や自転車で少し離れた場所に行ってから散歩をするのも気持ちがいいと思います。



筋力アップのための運動なら皆さんがよく知っているトレーニング方法で屋外でも自宅でも可能です。種々の道具を用いるのも本や動画を参考に行うのもいいと思います。筋肉を鍛えることは将来にわたって健康面で良い効果があります。例えばふくらはぎ（下腿三頭筋）は第二の心臓と言われています。下半身の血液は重力に逆らって心臓に戻らなければならないので上半身に比べると戻りがスムーズでなくなりやすいのです。ふくらはぎの筋肉を収縮させることで内部の血管が絞り上げられて血液が心臓の方へ戻っていきます。ふくらはぎを鍛える方法として爪先立ちがあります。1 秒くらいの爪先立ちをできる範囲で数回行ってください。何かにつかまりながらやるとより安全です。

精神面では、各自でそれぞれ人との交流の重要性には差があると思いますが、オンラインでマスクなしで顔を見ながら話すことやマスクをつけて、換気をして、少し距離をとって、2,3 人程度で直接会って話をするのもいいと思います。屋外であれば多少盛り上がっても感染する可能性は低いと思います。

コロナウイルス感染症診療が進歩し、インフルエンザと同等くらいになって、今のような自粛生活の日々から早く解放されることを祈念します。

コロナ禍での学生生活の過ごし方

保健センター助教　長岡舞子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、これまで、２０２０年から始まったコロナ禍で、受験勉強を続け、いろんな困難をくぐり抜けてこられた方々です。休校、zoom での授業に加え、部活動の中止、ソーシャルディスタンスをとるなど、これまでにない、社会の変化を体験されてこられたと思います。本来学生時代は、勉強だけでなく、人間関係を学んだり、部活動や社会活動に集中するなど、若い力を存分にだして活躍する時期です。しかし、コロナ禍はしばらく続くとみられており、これからも感染対策が重視される時期が来るかもしれません。そんな中、大学生活を過ごされる皆さんに、心がけて欲しいことがあります。それは生活リズムです。コロナ禍で、昼夜逆転、朝食抜き、食事量の低下、不安の増加などの傾向が全国的にも、また、世界的にも認められています。ステイホーム中に、生活リズムを乱さないことは、それなりに自律性を求められるため、時には難しいこともあるかと思います。そこで生活リズムを整えるコツをお伝えしたいと思います。



１：朝食を食べる

私たちのからだには「体内時計」と呼ばれる機能があり、25 時間の
周期で睡眠や体温、血圧、ホルモンの分泌などのリズムを刻んでいます。
一日は 24 時間なので、このズレを調整する必要があります。

２：朝日を浴びる（注意：太陽は直視してはいけません。）

朝日を浴び、朝食をとると、この体内時計がリセットされ、一日の生活リズムが整います。

３：早寝早起き

そのためには、早く起きて朝食をしっかりとり、夜も早く寝て睡眠をしっかりとるといった生活習慣
を身につけましょう。生活リズムが乱れると、活動能力や感情が不安定になってしまいます。

生活リズムを整え、楽しい学生生活を送ってください。何か心配事、不安などありましたら、保健センターをご利用ください。

参考：生活リズムをととのえる：農林水産省（maff.go.jp）

保健センターの利用について

保健センター看護師　田代邦子

熊本大学保健センターは、黒髪北キャンパスの赤門から附属図書館に通じる建物の１階にあり、学生さんと職員の福利厚生のために設置されている施設です。皆さんがこれまでお世話になった高校までの保健室とは異なり、医師の診察や投薬を受けることができます（無料）。なにか体調不良を感じたり、気になることや悩み事がある場合、ケガをした場合など、来所もしくは、電話を頂くと、まずは受付にいる看護師が対応します。必要に応じて、内科医や精神科医、心理士、キャンパスソーシャルワーカーに繋いだり、病院をご紹介します。

コロナ禍になり、新型コロナウイルス感染症に関する健康相談が大半を占めるようになりました。本学では、少しでも発熱や風邪症状があれば、登校はせずに、医療機関を受診するように決められています（少なくとも発症後８日間、かつ症状消失後３日経過するまでは登校できない）。新型コロナウイルスのＰＣＲ検査や抗原検査を受けた場合と感染した場合は、自身で保健センターと所属教務に報告するようになっています。連絡を受けて、看護師が電話で症状や行動歴等を詳しく聞き取り、対応について助言しています。その場合、健康観察が重要になってきますので、２週間分の健康観察記録ができる本学の「健康チェックシート」を活用しています（熊大のホームページからダウンロード可）。

また、新型コロナウイルス感染症に感染してしまった、濃厚接触者になったという場合は、基本的には保健所の指示に従って頂くとよいですが、なにか心配なことや登校再開について相談されたい時は、遠慮なく電話、もしくは、メールでご相談下さい。

最後に、黒髪キャンパスから離れている医学科・保健学科・薬学部キャンパスに開設している「健康相談室」にも触れておきます。健康相談室には、看護師とキャンパスソーシャルワーカーが在室しており、救護や学生生活での困り事の相談として利用できます。看護師は、病院実習に参加するために必要な「感染対策」も担当していますので、わからないことがあれば、お気軽にご相談下さい。開室日は、曜日によって決められていますので、保健センターのホームページを確認して頂ければと思います。

保健センターホームページＱＲコード→



保健センター業績

第 51 回九州地区大学保健管理研究協議会
合同シンポジウム「ポストコロナ時代の保健管理」

コロナ禍の学生定期健康診断 ～熊本大学の状況～

熊本大学保健センター[1]、学生支援部学生生活課[2]
○副島弘文[1]、長岡舞子[1]、田代邦子[1]、木下麻衣子[1]、
山本洋美[1]、片山きよみ[1]、久保裕恵[1]、速瀬輝久[2]、藤瀬昇[1]
熊本市中央区黒髪 2 丁目 40-1[1,2]

はじめに

2019 年から始まりやがて全世界に広がった新型コロナウイルス感染症に伴い、種々の行動制限が必要となっている。マスク着用が日常となり、3 密を避けた行動が必須となっている。集団でのイベント開催及び参加が制限され、飲食の場合は少数でも他人と一緒になることを避けるべき状況となっている。大学生活でも感染拡大を防止するという目的で対面講義からオンライン講義へのシフトがなされている。熊本大学では例年４月上旬から下旬にかけて学生定期健康診断を行ってきた。2020 年と 2021 年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、種々の変更・工夫を行ったが、そのことについて報告し、対面健康診断の意義について検討する。

2019 年までの学生定期健康診断概要

1. 前年度２月に教育実習予定者と医学部保健学科の学生の胸部レントゲン撮影を委託業者のレントゲン車にて行う（1300 人予定)。
2. 4 月上旬から下旬にかけて対面で学生定期健康診断を行う。
3. 4 月の胸部レントゲン撮影対象者は学部 1 年生、他大学から入学した大学院 1 年生および編入生、薬学部の病院実習予定者、医学部医学科の学生である（2800 人予定)。
4. 検診場所は薬学部キャンパス 1 日、医学部キャンパス 2 日、黒髪キャンパス（保健センター）10 日である。
5. 医学部キャンパスと黒髪キャンパスでは大学病院からの応援医師を午前・午後各 1 名ずつ派遣してもらっている。
6. 検診内容は身長・体重、血圧、内科検診、胸部レントゲン、尿
7. 検診結果から必要がある場合は、2 次検診を行う。

2019 年から 2020 年および 2021 年への学生定期健康診断の変化

2019 年の検診では胸部レントゲン撮影、身長・体重測定、血圧測定、内科検診のいずれにも列ができていた。2020 年は２月の胸部レントゲン撮影は新型コロナウイルス感染拡大前で以前と同様に行った。4 月の胸部レントゲン撮影も当初の日程のまま行ったが、感染対策をしながら、3 密を避けるため

長い列ができた。胸部レントゲン撮影以外の検診は内科検診を 8 月末-9 月に、身長・体重測定と血圧測定を 10 月に分散して行った。内科検診は学生と医師の間をビニールカーテンで仕切り、問診のみとした。各学部と連携して感染リスクのある学生の受診は避けるように依頼した。配慮が必要な学生に対しても対応を行った。受検学生には、まず、受付で手指消毒と体温測定器で体温測定してもらい発熱がないことを確認した。検診会場の換気も十分に行った。

2021 年は 2020 年の対応もしたうえで 2 月の胸部レントゲン撮影は時間を記載した整理券を配り受診を分散させたため、列はほとんどできなかった。2021 年 4 月は感染が落ち着いた状況と判断し、学生定期健康診断を日程通り行った。内科検診は問診のみとした。整理券を配り分散させたため、内科検診にも各検査にも長い列はできなかった。胸部レントゲン撮影は広めのレントゲン車内でも学生 3 人以下とし、顎や手や胸部の接触する部分は撮影ごと担当者にアルコール消毒してもらった。このように感染防止について試行錯誤しながら対策を行っていった。

感染対策のまとめ

検診当日に整理券（受診時間を記載した受付票）を配布したことで、検診開始前に学生が長蛇の列を作ることを避けることができた。身長・体重測定は 2 台、血圧測定は 4 台で対応し、自動で各人のファイルに記録されるシステムが整っていることも幸いして長い列はできなかった。内科検診は 3 診察室で対応し、学生との直接の接触を避けるために学生と医師の間をビニールカーテンで仕切り問診のみとした。問題ない学生は短く終わるため内科検診で列を作ることはなかった。レントゲン車に入る人数を制限し、撮影のたびに消毒を行った。

症例検討 1　理系学部 3 年生男子

検診時、精神的な問題で相談したいことがあるとのことであった。内容は履修登録についてであったが、かなり辛そうであったため学生相談室へその場で連絡を取り迎えに来てもらった。学生相談室では、授業に対する緊張が高く、最近特に易疲労感が強く、履修登録にも困難を感じている。自分の成績や将来への不安から大学院進学もどうしていいかわからなくなっている。2020 年 11 月幼馴染の突然死にも関連し希死念慮もあるということであった。修学支援に関しては、障がい学生支援室に繋げ、スタッフが時々面談し、修学状況を確認し、アドバイスされている。希死念慮に関しては、保健センター精神科医、カウンセラーへと繋げ、フォロー継続されている。

症例検討 2　理系学部 4 年生男子

健診時、精神的な問題で相談したいことがあるということで、内容は吃音があるために将来が不安であるとのことで 2 次検診となった。小学校の時、言葉の教室に 1 年くらい通っていた。自分では改善したと思い、中学・高校は改善状況を維持するため放送部に所属していた。最近、就職面接をして吃音が悪化したとのことである。初めの言葉が出るのに数十秒時間がかかることもあり、「き」で始まる言葉を発音しようとするとさらに深呼吸を何回か繰り返さなければならず避けているようであった。メンタル

面の不調はなく、言語療法を行うために病院紹介となった。

症例検討３ 理系学部４年生女子

問診票では「夜寝つけない」と「排便が１週間以上ない」にチェックがついていた。しかし、外見上著明な痩せがあり、質問に対し、嘔吐についての発言があったため２次検診となった。

2 次検診では、菓子パン 10 個、スナック菓子 3-4 袋、カップ麺 3 個など一気に食べてまもなくチューブなどを使って嘔吐することを 1 日 3 回毎日のように繰り返していることがわかり、摂食障害の診断で病院へ紹介予定となった。

対面検診のメリットとデメリット

メリット

・対応を急ぐ必要がある場合に早目に対処できる。(症例 1)

・困りごとを相談しやすく、症候を確認しやすい。(症例 2)

・問診票にチェックがなくても、外見や動作や受け答えから疾患の可能性を検討できる。(症例 3)

・問診票の記載について直接問い合わせることで、内容を正確に把握できる。(2 次検診として必要な項目を絞り込める。)

・2 次検診への呼び出しに応じてくれやすい。

デメリット（Web 問診と比べて）

・保健センターで入力作業を行わなければ、データの保管が紙ベースになる。

・感染拡大の状況下では感染症を拡散させる危険性がある。

終わりに

検診はスムーズに行えたと考える。検診を契機とする新型コロナウイルス感染症の発生は認めなかった。結果的には問題は生じなかったが、今後も感染拡大の状況に応じてどういう検診対応を取るのがよいのか検討していくべきである。また、今回の検診を通じて、対面形式の部分は残しておかないとメンタルヘルス不調を含め見逃される部分があるのではないかとも感じた。今回の検診では、内科健診時に触診・聴診をしない分、視診や問診は慎重になったと思われる。内科検診におけるノンバーバル・コミュニケーションが一層重要になった健康診断であると思われる [1]。問診時に学生と医師の両方がノンバーバル・コミュニケーションを上手に行うことができると学生は打ち明けやすくなり、医師も変化に気付きやすくなるため異常の発見が早期に的確になるのではないかと考える。

文献

青柳宏亮, 沢崎達夫. 心理臨床におけるノンバーバル・コミュニケーションに関する研究活動 目白大学心理学研究 2017;13:23-25.

【原著論文】
（英文）

1. Soejima H, Ogawa H, Morimoto T, Okada S, Matsumoto C, Nakayama M, Masuda I, Jinnouchi H, Waki M, Saito Y; JPAD Trial Investigators. Proteinuria is independently associated with the incidence of primary cardiovascular events in diabetic patients. J Cardiol. 2020;75(4):387-393.

2. Matsumoto C, Ogawa H, Saito Y, Okada S, Soejima H, Sakuma M, Masuda I, Nakayama M, Doi N, Jinnouchi H, Waki M, Morimoto T; JPAD Trial Investigators; JPAD Trial Investigators. Sex Difference in Effects of Low-Dose Aspirin on Prevention of Dementia in Patients With Type 2 Diabetes: A Long-term Follow-up Study of a Randomized Clinical Trial. Diabetes Care. 2020;43(2):314-320.

3. Kim-Mitsuyama S, Soejima H, Yasuda O, Node K, Jinnouchi H, Yamamoto E, Sekigami T, Ogawa H, Matsui K. Reduction in hsCRP levels is associated with decreased incidence of cardiovascular events in Japanese hypertensive women but not in men. Sci Rep. 2020;10(1):17040.

4. Suzuki S, Kaikita K, Yamamoto E, Sueta D, Yamamoto M, Ishii M, Ito M, Fujisue K, Kanazawa H, Araki S, Arima Y, Takashio S, Usuku H, Nakamura T, Sakamoto K, Izumiya Y, Soejima H, Kawano H, Jinnouchi H, Matsui K, Tsujita K. H_2 FPEF score for predicting future heart failure in stable outpatients with cardiovascular risk factors. ESC Heart Fail. 2020;7(1):65-74.

5. Oike F, Yamamoto E, Sueta D, Tokitsu T, Usuku H, Nishihara T, Takae M, Fujisue K, Arima Y, Kanazawa H, Ito M, Hanatani S, Araki S, Takashio S, Sakamoto K, Suzuki S, Kawano H, Soejima H, Kaikita K, Tsujita K. Impact of hydrostatic pressure on fractional flow reserve: in vivo experimental study of anatomical height difference of coronary arteries. Int J Cardiol. 2020;316:145-151

6. Okada S, Morimoto T, Ogawa H, Soejima H, Matsumoto C, Sakuma M, Nakayama M, Doi N, Jinnouchi H, Waki M, Masuda I, Saito Y. Association Between Statins and Cancer Incidence in Diabetes: a Cohort Study of Japanese Patients with Type 2 Diabetes. J Gen Intern Med. 2021;36(3):632-639.

7. Kanazawa H, Kaikita K, Ito M, Kawahara Y, Hoshiyama T, Kanemaru Y, Kiyama T, Iwashita S, Tabata N, Yamanaga K, Fujisue K, Sueta D, Takashio S, Arima Y, Araki S, Usuku H, Nakamura T, Izumiya Y, Sakamoto K, Suzuki S, Yamamoto E, Soejima H, Matsushita

K, Tsujita K. Improvement of Vascular Endothelial Function Reflects Nonrecurrence After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation. J Am Heart Assoc. 2021;10(17):e021551.

8. Usuku H, Yamamoto E, Noguchi M, Komorita T, Takae M, Oike F, Yamanaga K, Ito M, Fujisue K, Sueta D, Kanazawa H, Araki S, Arima Y, Takashio S, Nakamura T, Suzuki S, Kawano H, Soejima H, Kaikita K, Matsushita K, Fukui T, Matsui H, Tsujita K. Elevated C-reactive protein is significantly associated with left ventricular dysfunction in patients with aortic regurgitation and concomitant collagen disease. Int J Cardiol. 2021;328:152-157.

9. Nakanishi N, Kaikita K, Ishii M, Kuyama N, Tabata N, Ito M, Yamanaga K, Fujisue K, Hoshiyama T, Kanazawa H, Hanatani S, Sueta D, Takashio S, Arima Y, Araki S, Usuku H, Nakamura T, Suzuki S, Yamamoto E, Soejima H, Matsushita K, Tsujita K. Development and assessment of total thrombus-formation analysis system-based bleeding risk model in patients undergoing percutaneous coronary intervention. Int J Cardiol. 2021;325:121-126.

10. Matsumoto C, Ogawa H, Saito Y, Okada S, Soejima H, Sakuma M, Masuda I, Nakayama M, Doi N, Jinnouchi H, Waki M, Morimoto T. Incidence of atrial fibrillation in elderly patients with type 2 diabetes mellitus. BMJ Open Diabetes Res Care. 10(2):e002745, 2022

11. Soejima H, Ogawa H, Morimoto T, Okada S, Matsumoto C, Nakayama M, Masuda I, Jinnouchi H, Waki M, Saito Y. Kidney function deterioration is dependent on blood pressure levels: 11.2-year follow-up in diabetic patients. Heart and Vessels (in Press), 2022

12. Hajime Baba, Shinsuke Kito, Kazutaka Nukariya, Minoru Takeshima, Noboru Fujise, Junichi Iga, Hidehiro Oshibuchi, Masahiko Kawano, Mahiko Kimura, Katsuyoshi Mizukami, Masaru Mimura and Committee for Treatment Guidelines of Mood Disorders, Japanese Society of Mood Disorders. Guidelines for diagnosis and treatment of depression in older adults: A report from the Japanese Society of mood disorders. Psychiatry Clin Neurosci. 11 March 2022. doi.org/10.1111/pcn.13349

（和文）

1. 都剛太朗, 藤瀬昇, 福原竜治, 朴秀賢, 竹林実. 反復性うつ病の経過中にレビー小体型認知症が疑われ、電気けいれん療法および薬物療法で長期寛解状態が維持されている1例. 精神医学 63(11);1739-1744, 2021

2. 的場 祐二, 宮川 雄介, 都 剛太朗, 菅原 裕子, 田中 響, 石川 智久, 福原 竜治, 藤瀬 昇, 朴 秀賢, 竹林 実. 双極スペクトラム障害の可能性を考慮した薬物選択により寛解が得られた老年期反復性うつ病の 1 例. 精神科治療学, 36(7);835-840, 2021

3. 藤瀬昇、西良知、今井正城、一木崇弘、小山明日香 高齢期「うつ」の地域支援. 老年精神医学 vol. 32(12), 1280-1287, 2021

【総説など】

(和文)

1. 副島弘文 辻田賢一 ECG クイズ 手足の痺れ感と立ちくらみで受診した 62 歳の男性 循環器 plus 2020;20(3):13-14.

2. 藤瀬昇. 高齢者のうつ病の鑑別診断. Depression Strategy Vol.10, No.4 Dec. 2020

3. 井上寛子、副島弘文、藤本智美、斉藤由美、佐藤秀幸、藤瀬昇. 熊本大学における障がい学生支援室についての取り組み(第 1 報)―合理的配慮に関する各部局等との意見交換会を中心に―. 第 51 回九州地区大学保健管理研究協議会報告書 2021

4. 伊賀淳一、押淵英弘、河野仁彦、鬼頭伸輔、木村真人、武島稔、忽滑谷和孝、馬場元、藤瀬昇、水上勝義、三村將(ドラフト作成ワーキンググループメンバー). 高齢者のうつ病治療ガイドライン. 2020 年 7 月

5. 藤瀬昇. 高齢者のうつ病. メンタルヘルスくまもとV, 115-122, 2021 年 4 月

6. 副島弘文 辻田賢一 各種治療薬における上手な薬剤選択 抗血栓薬 臨床と研究 2022;99(2):33-38

【報道】

藤瀬昇. ステイホームのメンタルヘルス. くまにち あれんじ Vol.265, 4 月 3 日 2021

【学会発表】

(国際学会)

1. Soejima H, Morimoto T, Okada S, Chisa M, Nakayama M, Jinnouchi H, Masuda I, Waki M, Saito Y, Ogawa H. Kidney function deterioration is dependent on blood pressure levels: 11.2-year follow-up in diabetic patients. America Heart Association Scientific Sessions 2020 (Virtual conference), Dallas, Texas, USA, November 14-16, 2020

2. Soejima H, Morimoto T, Okada S, Chisa M, Nakayama M, Masuda I, Jinnouchi H, Waki M, Saito Y, Ogawa H.

   a) Dipeptidyl peptidase-4 inhibitors significantly reduce the incidence of first cardiovascular events in diabetic patients.

b) A mean hemoglobin A1c level of 7.5% is a cliff value for the development of cardiovascular events in diabetic patients.

America Heart Association Scientific Sessions 2021, Boston, Massachusetts, USA (Virtual conference), November 13-15, 2021

（国内学会）

1. 副島弘文. 歯周病を介した虚血性心疾患発症のメカニズム（予防医学、心臓リハビリテーション最新の動向、最新治療を学ぶ）. 第 84 回日本循環器学会学術集会（WEB 開催）, 7 月 27 日−8 月 2 日 2020

2. Hirofumi Soejima, Takeshi Morimoto, Sadanori Okada, Mio Sakuma, Chisa Matsumoto, Masafumi Nakayama, Hideaki Jinnouchi, Izuru Masuda, Masako Waki, Yoshihiko Saito, Hisao Ogawa. Continuous Blood Pressure Control Inhibits Progression of Proteinuria in 10-year Follow-Up Diabetic Patients ～Results From JPAD Cohort Study～. 第 84 回日本循環器学会学術集会（WEB 開催）, 7 月 27 日−8 月 2 日 2020

3. 副島弘文、長岡舞子、田代邦子、木下麻衣子、山本洋美、片山きよみ、久保裕恵、速瀬輝久、藤瀬昇. コロナ禍の学生定期健康診断～熊本大学の状況～, 合同シンポジウム「ポストコロナ時代の保健管理」, 第 51 回九州地区大学保健管理研究協議会（WEB 開催）, 7 月 12 日～30 日 2021

4. 副島弘文、森本 剛、岡田 定規、松本 知沙、中山 雅文、桝田 出、陣内 秀昭、脇 昌子、斎藤 能彦、小川久雄. 糖尿病患者 10 年の観察から導かれる継続的な収縮期血圧と estimated glomerular filtration rate (eGFR)の変化の関係. 第 69 回日本心臓病学会学術集会（WEB 開催）, 9 月 17−19 日 2021

5. 長岡舞子. 私の留学体験とキャリア形成ー子育てしながらー, 委員会シンポジウム「女性精神科医の仕事を知ろう No2」, 第 117 回日本精神神経学会総会（WEB 開催）, 9 月 21 日 2021

6. 藤瀬昇. 老年期うつの実態調査と熊本地震について. 第 45 回日本自殺予防学会総会（WEB 開催）、9 月 4 日 2021

7. 一木崇弘, 小山明日香, 竪野洋子, 今井正城, 長岡舞子, 西 良知, 竹林 実, 藤瀬 昇. 熊本県地域住民のコロナ禍における希死念慮に関する心理社会的要因の検討. 第 45 回日本自殺予防学会総会（WEB 開催）, 9 月 4 日 2021

8. 今井正城, 小山明日香, 荒木邦生, 一木崇弘, 太田隆博, 藤瀬 昇, 竹林 実. 機械学習を用いた地域在住高齢者における希死念慮の有無の予測について. 第 36 回日本老年精神医学会(WEB 開催), 9 月 16-18 日 2021

9. 井上寛子、副島弘文、藤本智美、斉藤由美、佐藤秀幸、藤瀬昇. 熊本大学における障がい学生支援室についての取り組み(第 1 報)―合理的配慮に関する各部局等との意見交換会を中心に―. 第 51 回九州地区大学保健管理研究協議会(WEB 開催), 7 月 12 日～30 日 2021

10. 竹尾美咲, 小山明日香, 橋本 衛, 藤瀬 昇, 松下正輝, 池田 学, 竹林 実. 介護の肯定的側面(Positive Aspect of Caregiving)に関する尺度の日本語版作成. 日本老年臨床心理学会(WEB 開催), 10 月 2-3 日 2021

【講演】

1. 長岡舞子. コロナ禍の青少年の習慣の変化、精神的健康(孤独、抑うつ、不安)について. 令和3年度地域精神保健福祉医療担当者自殺対策企画研修会(WEB 開催), 2 月 17 日 2022

2. 長岡舞子. エゴレジリエンスについて. 令和3年熊本大学附属小,中学校メンタルヘルス講演会(WEB 開催), 2 月 21 日 2022

3. 藤瀬 昇. ストレスチェック結果の活用について-おもにラインケアを中心に-. 令和 3 年度あさぎり町役場管理職研修会 あさぎり町役場(熊本) 10 月 14 日 2021

4. 藤瀬 昇. メンタルヘルスについて. 令和 3 年度ラインケア研修会 熊本県庁管理職 熊本テルサ1F 研修室(熊本) 8 月 11 日 2021

5. 藤瀬 昇. 地域における高齢者のうつ病予防の取組み. 熊本大学病院新中央診療棟 2F 集団精神療法室. R3 年度熊本大学神経精神科教室セミナー(熊本) 8 月 30 日 2021

6. 藤瀬昇. 老年期うつ病の実態調査と自殺予防の試み. 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター(熊本) 11 月 7 日 2020

7. 藤瀬 昇. うつ病の診断と治療(基礎編)-自殺予防も含めて-. 令和元年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修 熊本県医師会館(熊本) 2 月 15 日 2020

8. 藤瀬 昇. うつ病の診断と治療(基礎編)-with コロナも含めて-. 令和 2 年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修 熊本県医師会館(熊本) 1 月 16 日・2 月 6 日 2021

9. 藤瀬 昇. うつ病の診断と治療(基礎編)-with コロナも含めて-. 令和 3 年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修 熊本県医師会館(熊本) 12 月 25 日 2021

10. 藤瀬　昇. コロナ禍におけるメンタルヘルスー自粛がもたらすものー. あさぎり町ささえ愛福祉ネットワーク連絡会における研修会. あさぎり町ポッポー館(熊本) 2 月 28 日 2022